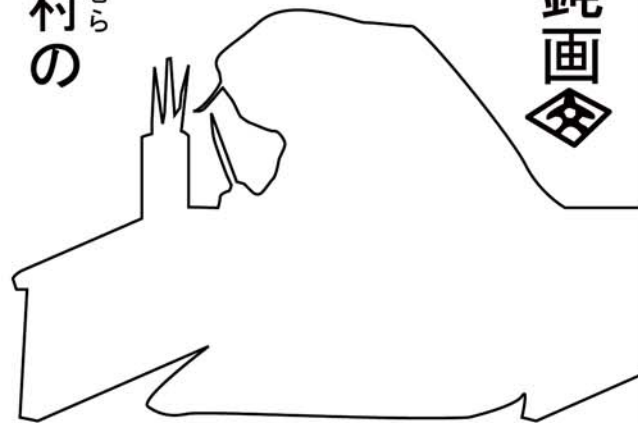


地震節用難事尽

大道散人
校訂

抑難事の初りハ昔滑
 らか国の鯁王といへる者
 そこらぢつをぬらくらと
 はねまハリしときそのゆり
 跡どんちやんとたすたとし
 て難事をなせりしとぞ
 小野が馬鹿村敷の中に
 あつて是を写しとり
 文字の数に加へたりしとかや

俣うわき 鈍画
 優ハやうきで
 俣ふさぎ
 俣ハいんきで
 俣ハまごつき
 小野が馬鹿村の
 御哥なり



かねへんニもち 鉦持	かりへんニたく 仮宅	のきへんニまると 軒染	けうへんわざハひ 凶災
くづれへんニした 崩	ふしへんニミチ 臥道	ふたへんニふるふ 醜	ほねへんニをる 斲
しちへんニとまる 質	ひへんニなまづ 燠	しかばねつむ 履	ほねへんニつぐ 接
かねへんニかり 錯	にんへんやける 焼	くらへんニかたむく 蔵傾	たいらへんニいへ 塚
ふなへんニから 臈	くるまへんは「ぶ 輶	きへんにてま 橋	にんべんにげい 儂
いしへんニかなめ 硬	やくへんニしや 役者	こてへんにぬる 塗	つちへんニになぶ 埼